

OfByForコラム 地域の 地域のための Something NEWS

連載 最終回

第48回

「地域のため」は、人づくり&人材育成

——未来、そしてAI時代に生き残るために

一般社団法人 光楓座
efco.jp
代表理事 佐藤建吉

▼OfByForの最終回

「地域の地域による地域のためのSomething NEWS」と題して48回にわたり連載してきた本コラムも最終回となった。前々回、前回では、それぞれ「地域の」、「地域による」について取り上げたので、今回は「地域のため(の)」についてフォーカスし、まとめてみたい。

▼地域や街と暮りし

かつて日本では、自宅は最も大事な人を迎える場所であった。したがって応接間があり、さらに大事な客人は座敷に通じた。そこには、日本の住建築の粋が込められていた。客人のもてなしも、作法も生まれた。

ところが、最近では、客人のもてなしは、自宅ではなくホテルや割烹で行われるようになってきた。ごく親しい関係ではファミレスや居酒屋で行われる。それは、団地やマンションが住居になり、手狭になったのが主因であると思われるが、

▼地域の機能と特徴

筆者の地域に関する認識は、主観的には①地域に誇りをもつことであり、客観的には②地域はそれぞれ特徴があり、個性をもっているとの視点である。すると、①については、井の中の蛙という嘲笑がありそうだ。しかし、現在ではある個人

▼むらなる変革への備え

先月中旬、元参議院議員で前文部科学副大臣の鈴木寛氏の講演「AI時代における人材育成と教育改革」を拝聴した。同

もてなしが手間や手作りではなく、お金を払って託すことの方が、相応しいとの授受双方の理解が出来たようである。

関心は各々の家や庭先から離れ、街の重要性が増し、さらには郊外や隣街、あるいは東京へと流れた。結果、街はおろか地域の崩壊をうみ、さらに田舎から都会への流れを作り出した。広くなられば個から公への関りが増えて、交流と出会いが広がり、公共概念が育つとも思えたが、しかし一時の関りに過ぎず、むしろ公共性の希薄さも一部では生まれた。それは、街の単位にも帰結し、いわゆる「コミュニティの危機」の警鐘すら鳴らされている。

筆者也30力国以上、そこから数百の海外の都市や街を訪ねたが、それぞれが間違いなく②の特徴や個性があり、また住民には①の誇りがあった。

国際的な観光都市は、往来や交流の都市機能と役割を持っている。観光客にとっては、それは易動度の心地よさであり、同時に、それはそこへ赴く観光客を迎え入れる観光地の人々の協働関係に他ならない。観光都市は、それを上手に立振舞っている。これは、おもてなしの妙であるだろう。

ロンドン、パリ、ニューヨーク、上海、香港などは、金融や経済の、あるいは芸術の都市であり、出張や観光、そしてコンベンションの機能を保持。それぞれが新時代に対応して、都市や街は変容してきた。

▼「地域のため」人材育成

こうした変革に対応できる人材が必要となる。それは、一部の人ではなく、社会システムのほかに、家庭生活においても必要なのは、社会をリードする人材でもある。その確保には時間を要するかもしれないが、教育として実施する方針が必要である。

その人材や人材の養成は、若者や次世代の人々にはもちろん必須であるが、同時に次世代、次々世代を残すために、親や祖父母世代にも必要である。そのパワーは「シル

バードモクラシー」として、次世代をつくる起爆力になるのであるが、その世代への方策や対応も欲しい。

「地域のため」エネルギーを同じことが、エネルギーは、私たちと身近な家庭

「地域のため」エネルギーを同じことが、エネルギーは、私たちと身近な家庭

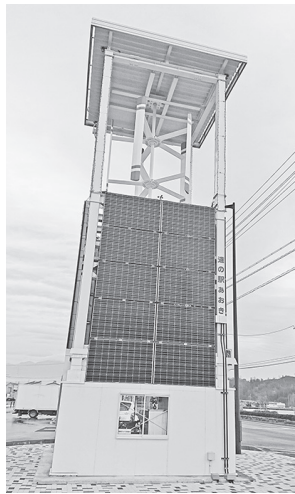
「地域のため」エネルギーを同じことが、エネルギーは、私たちと身近な家庭

「地域のため」エネルギーを同じことが、エネルギーは、私たちと身近な家庭

「地域のため」エネルギーを同じことが、エネルギーは、私たちと身近な家庭

「地域のため」エネルギーを同じことが、エネルギーは、私たちと身近な家庭

写真：長野県青木村の道の駅あおきタワー(風車・太陽光出力、各3.5kW)



連載・新エネルギービジネス

や街、そして「地域の暮らし」と密接に関わっている。いずれも共通するのは、未来への時間軸である。それを共に歩む人材と主導する人材が必要である。それが、未来へ持続する地域力となる。

地域は、愛着と個性を作り出せる。一過性でなく、持続できるしかも先取りした気概を作りだしたい。その背景に、「OfByFor」の意味を